



新工SPH通信

VOL.66

新潟県立新潟工業高等学校

SPH推進委員会

平成30年9月21日

Community cooperation

平成30年9月12日(水)1・2年生を対象に、国際社会における具体的な課題を理解し、技術的対応策を思考することを目的に、本校土木科の卒業生でもある、新潟県青年海外協力協会会長 渡部 悟 様から、ミクロネシアやマレーシアにおける国際協力の体験について本校体育館で講演をしていただきました。



【講演内容】

- 日本は世界とつながっており、少ない豊かな先進国の1つなので、国際貢献をする必要がある。
- 仕事である程度経験を積むと、このままでよいのか考えるときが来る。それが青年海外協力隊へ応募するきっかけになった。
- 英語は不得意でも、必要になれば集中してがんばることができる。また、英語圏で活動するとは限らないので、現地の言葉や身振り手振りも使って伝える内容の方が重要である。
- 港や空港などのインフラ整備の際、現地の環境や状況に応じて、柔軟に対応する必要があった。
- 新潟工業で学んだ基本的な技術（測量など）が現在でも大変役立っているのだから、自信を持つこと。

【生徒の感想（スキルアップシートより）】

- 今回の講演を聴くまでは外国には行きたくないと思っていたけど、外国の文化や人と触れ合うことはとても大事なことだと思った。
- TVで偶然見た海外協力隊に参加して、現在は会長になっていると聞いて、自分はそのまで行動ができるのだろうかと思った。同時に自分もそれぐらい行動できるよう努力しようと思った。
- (外)国を助けたいという気持ちがあれば、言葉が話せなくても、自分が持っている技術や何かがあればできる、ということが分かった。
- 今の時代は国際協力がなければいけないと思った。海外の国と協力して、たがいに工業を発展させる大切さを知ることができた。
- 海外に行くことで、新たな自分や新たな考えを発見することができるのだなと思った。

【生徒の変容と身についた力（スキルアップシートより）】

- 同じ新潟工業高校出身の先輩の体験ということから、国際貢献をより身近に感じられるようになり、「大変そうだけど、やってみたいと思った」というような積極的な関心をもつ生徒がでてきた。
- 今学習している内容や技術が具体的に世界でどう使われるかということを知り、「工業で学んだことが世界で通じていることが分かった。人の役に立つ仕事がしたいと思った。」というように学習意欲が高まり、自信につながった生徒が多くみられた。
- 英語が不得意だった渡部先生の体験談を聴いて、「なんでもやればできるんだなと思いました。私もいろいろなことにチャレンジしたいです。」というように苦手なことにも取り組む姿勢が生まれてきた。
- 「事前学習資料を読んでおいたのだから、内容がスムーズに理解できた。」というように、事前学習の効果を実感する生徒が出始めた。